



時代に即応した

活力ある県政を展開

県知事 沢田一精

昨年から申しておったことですが、ことしの県政の重点は福祉行政の充実であり、地域開発と人間生活、住民生活との調和が大きな課題であろうと思っております。しかしながら、福祉生活の充実といい、地域開発と住民生活の調和という課題、いずれも住みよい社会をつくり、豊かな郷土を築くという考え方に帰一するものと考えます。

ところで、現在考えられておる住みよい社会とはどういう社会であるかということをお互い考えてみなければならぬと思っております。

その第一は、災害のない安全な国土ということであろうと思っております。健康で暮らせる社会ということであろうと思っております。もちろんその中には公害が起こってはならないという重大な要素を含んでおります。この第一の考え方―安全に住める、健康で暮らせる社会―これが、まず第一条件であろうと思っております。

第二番目は、これも当り前のことですが、できるだけ収入の多い暮らしのできる社会、また物価が安くて暮らしやすい社会、生活に便利な社会ということが第二の目的であろうと思っております。

そして最後は、極めて人間的な要素が付け加わりますが、快適に住める生活環境、これには自然環境の保護ということ前提としなければならぬという要素もたくさんあると思っておりますが、快適に住める社会、そして生活にはりの持てる社会、これが第三の目的であろうと思っております。

くり返して申し上げますが住みよい社会、豊かな社会というものは第一番目には安全で健康で暮らせる社会ということ、第二番目には収入ができるだけ多く、住みやすい社会ということ、第三番目は快適ではりのある生活が営める社会、この三つを觀念的にひっくり返して、豊かな社会あるいは住みよい社会、現在に生きております私共は誰でもそういうことを考えておる、そういうふうには私は確信をいたしております。もちろん、こういった考え方の分析には皆さん方それぞれ異論もあろうかと思

私共がしばしば申し上げておりますように、時代の移り変わりは非常に急激なものがございまして、できるだけ時代を先取りして県政を進めていかなければならないということをお願いして参りましたが、その目指すところは今申し上げました住みよい社会の建設、豊かな社会の建設ということになるかと思っております。そして、その終局の目的をつらつら分析して考えますと今申し上げましたようなことが、いくつか課題として浮び上がって来るはずだと思っております。

また県下の地域開発を考えました場合に、それぞれの地域におきます県政に対する要望というものは、複雑多岐であるわけでございます。觀念的に自然保護だけをやっておれば、それで住民の要望に応えようという時代ではございません。また逆に公共投資を増やして公共事業の推進だけをやっておれば、それで住民が満足するという時代でもなからうと思っております。それぞれの地域に生活している県民の方々が今、県政に何を一番強く望んでおられるかということをお互いに考える必要があると思

います。それぞれの地域で何が一番大事なことであるか、当面何をすべきであるかということをお互いに考える必要があらうかと思っております。そして、それぞれの持つております仕事の意義というものを考えなければならぬ。何もかも一緒にやるうとしてもできるものではありません。自ずからそこにウエイトが置かれてしかるべきだと思っております。そこに皆さん方のかねての勉強と英知を期待するゆえんである訳でございます。

私は就任以来、県民の皆さん方との対話ということをお県政推進の基本方針としてやって参りました。また昨年は、美しい熊本づくり運動に象徴されるように、県民総参加の県政ということをお言っても参りました。しかし、要は今申し上げますように、その地域々々に住んでいる住民の方々が何を県政に望んでいるかということをお吸いあげて、そしてそのことの軽重を考慮判断をして住民の要望に応える県政をやっていくべき、ということに他ならないのでございます。どうぞ今年、そういう意味で過去の情性に流されることなく新しい気持ちで、今までやってこられた仕事の流れというものを再検討していただき、本当に効果のある、住民の要望に応える県政を皆さん方の力で推進していただきたいと思っております。

一口で申しますならば、時代に即応した活力ある県政の展開が私の念願でございます。そして、その活力は皆さん方のチームワークによって初めて生まれ得る、このように期待をいたします。組織の力が勝負を決する時代であるということをお私は過去においても申し上げましたが、皆さん方の団結とチームワークが新しい活力を生む根源であろうと確信をいたします。と同時に活力ある県政ということは常に行動を伴わなければならないと思っております。情性に流されることはいちばんいけないことであらうと考えるものであります。常に反省をおこたらず前進を求めて内に活力を秘めて、その活力を行動に移すということに新しい県政の理念がなければならない、かように確信をいたしますが故に年頭に当たり特にこのことを申し上げたいと思っております。

いろいろと理屈っぽいことを申し上げましたけれども、これだけお集まりの機会は、めったにございませんからお許しをいただきたいと思います。皆さん方の若々しい新しい力でも一九七三年、昭和四十八年の県政を立派に推進していただきたい。私はその先頭に立って常に在るといふことを申し上げたいと思っております。その日その日に最善を尽くすということもまた必要であらうと思っております。移り変わりの激しい時でありまして、将来のことをしっかりとふまえ住民の要望に応え全力を上げてその日の仕事をするという姿勢を皆さん方に、あえて求めたいと思っております。

最後に、今年の県政の順調な発展と県民、県職員の皆さん方のご健康とご多幸とを衷心から祈念いたしまして年頭のご挨拶といたします。